第９期北海道総合開発計画キックオフシンポジウム概要（帯広開発建設部）

共に北海道の未来を創る 第９期北海道総合開発計画

十勝でしか味わえない「食」と「観光」～唯一無二の“十勝ブランド”を再認識し、発信方法を模索する～

開催概要

◎日時：令和６年10月17日（火）13:30～16:00
◎会場：とかちプラザ２階レインボーホール（帯広市西4条南13丁目1）
◎参加：約２００名

◎プログラム
〇帯広開発建設部の共創の取組
〇基調講演①「世界に誇る十勝の食」
　国土審議会北海道開発分科会計画部会委員　小　谷　あゆみ 氏
〇基調講演②「「十勝観光の展望について」
　北海道ホテル社長　林　克　彦 氏
〇パネルディスカッション「十勝でしか味わえない食と観光」
　☆コーディネーター　小　谷　あゆみ 氏
　☆パネリスト（五十音順）
　株式会社デスティネーション十勝専務取締役　荒　井　駆　氏
　株式会社いただきますカンパニー代表取締役　井　田　芙美子 氏
　公益財団法人とかち財団理事長　金　山　紀　久 氏
　十勝シティデザイン株式会社代表取締役　坂　口　琴　美 氏
　株式会社満寿屋商店代表取締役社長　杉　山　雅　則 氏

【基調講演①】小谷 あゆみ 氏

【基調講演②】林 克彦 氏

パネルディスカッション

荒井 駆 氏

井田 芙美子 氏

金山 紀久 氏

坂口 琴美 氏

杉山 雅則 氏

主な発言内容

＜基調講演＞

〇 人はミッションがあると地域から離れていかない。関係人口のカギとしては「関わりしろ」があること。

〇 農業の魅力が伝わるためには「わたし自身」が参加すること、自分ゴトとすることが重要。傍観者よりはプレイヤーに、ゲストよりはホストに、能動的・生産的・主体的な生き方を増やすことが大事。

〇 十勝はインバウンドも含め、フライフィッシング、ゴルフ、ハンティング、乗馬、サウナなどが盛んであるが、サウナの「整う」は、まさにアドレナリンとドーパミンが同時に出た状態。ワクワク感と達成感が同時に味わえて、必ず繰り返したくなる。

〇 今ある資源を磨き直し、何か１つプラスする、仕掛けることが必要。そうすれば十勝はもっと良くなる。

＜パネルディスカッション＞

〇 大切なのは、携わる人が、十勝が心から好きであること。この原動力、情熱が無いと続かないし、離れていく。また、誰がどんなことを求めて、誰に何をするのか、データを用いたマーケティングが大事。

〇 人口減少下において、スマート化、DX化が１つの方策。スマート化に精通した人材、魅力的な人材をいかに集めることができるかが重要。また、観光産業にとって、安全でスピーディーな移動ができる道路インフラ整備は大事。

〇 住みやすいエリアが住みづらくなってほしくない。スーパーコンパクトシティであってほしい。集中して住まないとイノベーションが起きない。アイデイアが集中し続ける。みんなが暮らしやすい、歩ける街づくりが重要。

〇 人材不足について、十勝に戻ってきてもらうためにも、食に関する教育、地域に関する教育、開拓者精神を小さい頃から教育することが大事。デジタルネイティブの世代だからこそ、頭の中に食、農業などリアルなものをどれだけ残すことができるのか重要。

〇 人口減少とジェンダーの問題は、喫緊に解決すべき社会課題だけでなく経済問題にもなっている。次世代を育成し、地域課題を解決するには、親世代が子どもたちに幸せに暮らす姿を見せないといけない。ぜひ、 子どもたちが帰って来たいと思ったときに帰ってこられる十勝を一緒に創っていきたい。